

令和元年度

第10回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和元年8月2日（金）
開会14時5分 閉会15時6分

場 所 教育委員室

令和元年度
第10回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 議 案

第1号議案 大分県立学校いじめ対策委員会委員の任命について

(2) 報 告

① 平成31年度全国学力・学習状況調査等結果について

(3) 協 議

① 大分県立図書館協議会委員の任命について

② 大分県立歴史博物館協議会委員の任命について

(4) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
	委 員	岩 崎 哲 朗
	委 員	松 田 順 子
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	鈴 木 恵

事務局	教育次長	檜 崎 信 浩
	教育次長	後 藤 榮 一
	参事監兼教育財務課長	佐 藤 誠一郎
	参事監兼福利課長	阿 部 浩 康
	参事監兼特別支援教育課長	後 藤 みゆき
	教育改革・企画課長	中 村 崇 志
	教育人事課長	渡 辺 登
	学校安全・安心支援課長	簗 田 祐 二
	義務教育課長	内 海 真理子
	高校教育課長	久保田 圭 二
	社会教育課長	石 井 利 治
	人権・同和教育課長	永 井 弘
	文化課長	木 下 敬 一
	体育保健課長	加 藤 寛 章
	教育改革・企画課主幹 (総括)	門 野 秀 一
	教育改革・企画課主査	池 邊 大 介

2 傍聴人

1 名

開会・点呼

(工藤教育長)

それでは、委員の出席確認をいたします。
本日は、全委員が出席です。

(工藤教育長)

ただ今から令和元年度 第10回教育委員会会議を開きます。

署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名については、林委員にお願いしたいと思います。

会期の決定

(工藤教育長)

本日の教育委員会会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は14時50分を予定しています。よろしく申し上げます。

議 事

(工藤教育長)

次に、会議を公開しないことについてお諮りします。

会議は原則として公開することとなっておりますが、第1号議案並びに協議の①及び②は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

公開しないことに賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案並びに協議の①及び②は、非公開といたします。

本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行いますので、よろしくお願ひします。

【報 告】

① 平成31年度全国学力・学習状況調査等結果について

(工藤教育長)

それでは、報告の①「平成31年度全国学力・学習状況調査等結果について」
内海 義務教育課長から報告いたします。

(内海義務教育課長)

平成31年度全国学力・学習状況調査及び大分県学力定着状況調査の結果を報告
します。

資料1をご覧ください。

調査対象は、小学校6年生及び中学校3年生です。調査はこれまで、国語、算
数・数学については、A知識・B活用の二つの区分で実施されてきましたが、本
年度は、知識・活用の区分をせず、一体的に出題されています。また中学校では
初めて英語の調査が実施されました。ただし、英語の「話すこと」については、
今回参考値扱いで、正答率等には入っていません。

結果の概要をご覧ください。

小学校の正答率は、国語、算数とも全国平均以上です。中学校の正答率は、英
語を除く国語、数学が全国平均を上回りました。数学はこれまでB活用が全国平
均に届いたことがなく、今年度、ほぼ全ての問題で活用する力が問われる調査で
全国平均を1ポイント上回ったのは、授業改善、指導の改善が進んでいる成果で
あると捉えています。

資料2をご覧ください。

各教科の平均正答率の合計値について、全国平均との差の経年変化を表したも
ので、これまでの県教育委員会の学力向上施策を重ねて示しております。小学校
は調査開始から右肩上がりに伸び、平成26年度から全国平均以上を維持してい
ます。中学校は長く低迷しておりましたが、平成29年度調査で初めて全国平均
を上回り、今回、過去最高のポイントとなりました。

中学校の学力が向上してきた要因としては、平成28年2月に提示した「中学
校学力向上対策三つの提言」を踏まえ、各学校が指導の改善に努力したことが大
きいと捉えています。具体的には3点考えられます。

資料3をご覧ください。

1点目は、校長のリーダーシップの下、教務主任や研究主任を中心に授業改善
の組織的な取組が進んできたことです。例えば、①のグラフ「授業研究や事例研

究など、実践的な研修を行っているか」という問いに「よくしている」と回答した中学校は、10年間に36.5ポイント増加し73.8%となり、全国平均値56%を17.8ポイント上回っています。また、②「全国調査の結果を調査対象の学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか」という問いに「よく行った」と回答した学校も年々増加し、全国平均を22.9ポイント上回っています。小学校に比べれば数値的にはまだ若干低いものの、中学校においても学力向上の組織的な取組が進んでいると捉えられます。その結果、③のグラフのように、生徒自身も話し合い活動の充実や課題解決に向けた取組について7割以上が肯定的な回答をしています。

2点目は、三提言の二つ目にある教科部会の充実です。特に数学については、平成29年度から数学指導力強化巡回指導を実施してきました。昨年度は95校を対象に210人ほどの教員に対し、それぞれ2回の訪問指導を行うとともに、その機会に校内や近隣校と合同の教科部会等で成果と課題を共有する取組を実施しました。なお、大分市の学校については、大分市独自の施策である「教科指導マイスター」が同様の巡回指導を実施しています。この取組により、②のグラフのように「数学授業の内容はよく分かりますか」という問いに肯定的な回答をした生徒が、初めて70%を越え、③のグラフのように、これまで大分県の中学生が苦手としてきた「言葉や数、式を使って説明する問題についても最後まで解答を書こうと努力した」生徒が増加しました。

3点目としては、三つの提言にある「生徒と共につくる授業」が浸透してきたことが挙げられます。県内の中学校の97.6%は、生徒による授業評価を実施しており、研究主任や教科主任を中心に、それを授業改善にいかす努力をしています。また、生徒が自分たちで学習規律を考え、生徒会等でそれを守る取組を進めるなど、生徒たちも「学びに向かう学校づくり」に励む学校が増えています。その結果、①のグラフのように「生徒が授業中、私語がなく落ち着いているか」という問いに「そう思う」と回答する学校が年々増加しています。

次に課題です。全国平均に届いていない中学校英語の現状について、資料4をご覧ください。

領域別・観点別の結果では、全ての領域・観点で全国平均に届いていません。外国語理解の能力において全国との差が大きく、特に「聞くこと」について、情報を正確に聞き取ることや聞いて把握した内容について、適切に応じることに課題があるという結果が出ています。平均正答率分布にあるように、正答率20%以下の生徒の割合は、大分県が3.3% 全国が3.4%で、大分県の方がやや少ないのですが、正答率80%以上の上位層が薄いという状況です。

学校質問紙による指導の状況については、右側の①にあるように、「聞いたり読んだりしたことについて、内容を英語で書いてまとめたり、自分の考えを英語で書いたりする活動」を行った学校は、72.1%で、全国値より高いという結果が出ています。そして、そのような授業を実施している学校は、右下の縦グラフにあるように、正答率が高いということがクロス集計で明らかになっています。ここに挙げていない質問項目を見ても、今、求められてる言語活動を通して英語の

力を育む授業を実施している学校は、全国値よりも多いという結果が出ています。

一方、生徒の意識については、右側②のグラフのように「英語の授業がよく分かりますか」という問いに肯定的に回答した生徒の割合は62.9%です。全国値よりも3.1ポイント低く、また、他の教科に比べても低い状況です。グラフ③及び④のように、英語の勉強に対する関心・意欲にも課題が見られます。どうして、このような結果になったのかについては、今後、詳細に分析して原因及び対策を明らかにしてまいります。現時点では、次の四つの課題が挙げられると考えます。

- (1) 1点目は、先ほどの指導の状況のグラフで、授業改善をしていると回答している72.1%の残り約3割の学校の授業改善をまず確実に進めることです。
- (2) 2点目は、授業を改善していると回答した学校についても、付けたい力が確かに付いているか見取っていくことで、言語活動の有効性を絶えず確認する必要があります。その際、グラフ⑤及び⑥のように教員と生徒の回答状況にズレが生じているところから、振り返りの活動を重視する必要があると考えています。
- (3) 3点目は、単元を通して、文法の定着や語彙の拡充をいかに図っていくか考えていく必要があります。
- (4) 4点目は、生徒の英語学習への意欲、学習の必然性を感じさせる機会をどのように生み出していくのか。これは英語科だけではなく学校全体で考えていくことも重要ではないかと考えます。

資料5をご覧ください。

これは各教科の平均正答率の分布です。点線四角囲みの平均正答率20%以下の児童生徒の割合は、小・中学校とも全ての教科で全国平均より少ないという結果になっています。また、低学力層の割合を全国と比較すると、小学校国語は平成25年度は0.3ポイント多かったのが、今年度は全国平均より1.8ポイント少なくなっており、低学力層が減少しています。算数は元々全国平均より少なく変化はありませんが、中学校の国語、数学は共に低学力層が減少しています。義務教育は全ての子どもたちに一定レベルの学力を身に付けさせることを使命としておりますので、低学力層の引き上げについては、今後一層力を入れていきたいと考えています。

以上で全国学力・学習状況調査結果の報告を終わります。

続いて、大分県学力・定着状況調査の結果を報告します。

資料6をご覧ください。

調査の対象学年は、小学校第5学年及び中学校第2学年です。

結果概要をご覧ください。

市町村立学校が全ての教科・区分で偏差値50を超えたのは、平成26年度に一度ありましたが、それ以来、中学校社会科が導入されてからは初めてとなります。

資料7をご覧ください。

平成25年度からの低学力層の推移です。本調査では偏差値34以下が出現する標準的な割合は7%とされています。今年度は、小学校は全ての教科で7%未満で、中学校は理科を除き低学力層の割合が標準の7%以下となっています。更なる底上げを目指してまいります。

調査結果の活用に係る今後の予定についてですが、9月9日に市町村の学校教育主管課長が出席する第1回学力向上検証会議を開きます。その際、課題である英語の指導改善について文部科学省の教科調査官の講義を予定しています。

なお、全国・県共に市町村別の調査結果及び成果を挙げている学校名の公表につきましては、9月下旬に県教育委員会ホームページにて公表する予定です。

(工藤教育長)

ただ今ありました報告につきまして、ご質問・ご意見等のある方はお願いします。

(松田委員)

課題であった数学については、3年前から、義務教育課長が特に力を入れて取り組んでいると言われていましたので、期待していたところ、実際に結果が上がってきました。

英語については、「3 課題」の中に、「授業改善が十分でない3割程度の学校の授業改善」とありますが、学校を指定しても教員は異動しますので、「英語担当教員の資質を向上する」といった表記の方が良いと思われま。

ある新聞記事によれば、東京都の子どもは英語の能力が非常に高いとありました。生活の中で、子どもたちが英語に接する機会や英語を使う機会が多いため、能力が高いのだということです。ですから、これからは学校だけではなく、外国人と接したり、生活の中でどのように英語に親しむかということも大事になってくると思います。

他の教科の結果も上がってきましたが、これは、県教育委員会が主体となって、義務教育課が素晴らしい取組を行い、学校の先生方と一体になった結果だと思えます。このことについては、是非、学校の先生方を奨励していただきたいです。

(高橋委員)

英語の聞き取りを苦手としているようですが、その対策について何か考えていますか。

(内海義務教育課長)

これから具体的な対策を考えていかなければならないと思っていますが、まずは、教員の授業力がどの程度なのかを見極め、その上で、きめ細かい指導をしていく必要があると考えています。

(高橋委員)

数学指導マイスターがいるという説明がありましたが、他の教科でも設けているのでしょうか。

(内海義務教育課長)

教科指導マイスター制度は、大分市が独自に行っている施策です。県としては指導主事を中心に各学校を巡回するようにしています。

(高橋委員)

教科指導マイスター制度は大分市だけの取組ということですね。

(岩崎委員)

今年度の全国学力・学習状況調査においては、沖縄県の小学校の躍進が著しいようですが、その理由として分かっていることはありますか。何か見習うべき点があるのでしょうか。

(内海義務教育課長)

沖縄県の小学校が上がった要因としましては、分析をしっかりと行い、弱点を明らかにしたこと、そして、文部科学省の調査官が各島ごとに行って対応するなど、きめ細かく丁寧な指導を積み重ねていった結果だと伺っています。

(岩崎委員)

資料3「中学校学力向上の要因」の1-②における「全国学力・学習状況調査結果の活用」については、かなり数値が上昇してきています。この点については、これまでの市町村地域別意見交換会等の場でも当該結果を十分いかしてほしいという要望を教育委員の立場からしてきましたが、今回の結果を見ると、各先生方が学校単位で非常によく頑張っており取り組んでいただいていると思っています。

それから資料4「中学校英語の現状と課題」について、基本的な文法が理解できていないといった分析結果が出たようですが、大分県においては何か対策を考えていますか。

(内海義務教育課長)

課題でも挙げましたが、文法事項の定着、語彙^いの拡充について課題があります。言語活動を中心とする授業改善を進める余りに、肝心なところが抜けていたという状況が見受けられます。1時間単位ではなく、単元の中において、この時間は文法を押さえる、又は語彙^いの拡充をする、あるいは家庭学習で押さえる、といった指導をしていく必要があると考えています。

(松田委員)

新聞をよく読む、あるいは授業で新聞を活用する学校の子どもは、活用力が高く、また、思考力・判断力・表現力・学びに向かう力を育てるには、新聞がよい

教材であると聞きました。今回の資料には、そのようなことが書かれていないのですが、N I E（Newspaper in Education。学校などで新聞を教材として活用すること。）については、どのように考えていますか。

（内海義務教育課長）

N I Eは進めていきたいと考えています。毎日、新聞を読んでいる子どもは、今年度の全国学力・学習状況調査時点において、大分県の中学生で3.6%、全国平均も4.6%と非常に少ない状況です。まずは日常的に新聞を読む子どもを育てるという意味でのN I Eが必要であると考えています。

（林委員）

英語に対する生徒の意識について、資料4「中学校英語の現状と課題」の2-④「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思えますか」における回答結果が気になります。

例えば、中学生が、近く開催されるラグビーワールドカップのボランティアに参加し、外国人との会話を体験することで、もっと英語を使えるようになりたいと思うようになると思いますが、大分県のボランティア中学生の参加状況はどのようになっていますか。

（内海義務教育課長）

中学生のボランティア参加状況については、義務教育課は把握していませんが、今回、中学校では、ウェルカムカードを英語で書いておもてなしする等の活動は行っています。

（林委員）

いろいろな国の人とできるだけたくさん交流をすることで、英語を勉強しようという気持ちにつながりますので、今回のラグビーワールドカップは良い機会だと考えています。

（鈴木委員）

中学生の夏休み期間中、新聞記事を使った宿題が出されますが、新聞を購読している家庭が非常に少ないので、学校の新聞を使わせてもらう子どももいるようです。実際に大分合同新聞の購読率も年々低下してきていますので、そこは家庭との協力体制も必要になってくると思います。

また、今回の全国調査の結果を見ると、小学校の結果は良いが、一方で中学校の結果が良くない、又はその逆もあるといった都道府県がある中で、大分県は小・中学校共に良い結果であり、学力の定着が見られたことを嬉しく思いました。これは学校の先生方の頑張りの結果でもあると思いますので、是非、先生方を褒めていただいて、次への取組につなげていただきたいと思います。

(松田委員)

もっと中学校の英語教員が、外国人と話す機会を増やし、経験を積み、自信を付けていただきたいです。そして子どもたちに対し、外国人と話すことの楽しさを自ら伝えられるようになっていただきたいです。

(岩崎委員)

県内における学力の地域間格差が出てきているように感じますので、市町村教育委員会との連携を深めて対応していただきたいと思います。

(工藤教育長)

ほかにございませつか。

それでは、先に非公開と決定しました議事を行いますか、その前に、公開でそのほか何かございませつか。

(工藤教育長)

では、非公開の議事を行いますので、関係課長のみ在室とし、その他の課長及び傍聴人は退出してください。

【議案】

第1号議案 大分県立学校いじめ対策委員会委員の任命について

(2課〔教育改革・企画課、学校安全・安心支援課〕在室)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案「大分県立学校いじめ対策委員会委員の任命について」
箕田 学校安全・安心支援課長から説明いたします。

(説明)

(工藤教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。ご質問・ご意見のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

ほかにございませつか。

それでは、第1号議案の承認についてお諮りいたします。第1号議案について、承認される委員は挙手をお願いします。

(採 決)

(工藤教育長)

第1号議案については、提案どおり承認します。

【協 議】

① 大分県立図書館協議会委員の任命について

(2課〔教育改革・企画課、社会教育課〕在室)

(工藤教育長)

次に、協議の①「大分県立図書館協議会委員の任命について」石井 社会教育課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ただ今の説明について、質問・意見等のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

委員の任命については、今回の結果を踏まえて、次回教育委員会で正式に決定します。

【協 議】

② 大分県立歴史博物館協議会委員の任命について

(2課〔教育改革・企画課、文化課〕在室)

(工藤教育長)

次に、協議の②「大分県立歴史博物館協議会委員の任命について」木下 文化課長から説明いたします。

(説 明)

(工藤教育長)

ただ今の説明について、質問・意見等のある方はお願いします。

(質疑・意見等)

(工藤教育長)

今回の協議の結果を踏まえて、次回の教育委員会に議案として提出をお願いします。

(工藤教育長)

最後にそのほか何かございますか。

ないようですので、これで令和元年度 第10回教育委員会会議を閉会します。
お疲れ様でした。